

以下、本文

腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術の前投薬としてのレルミナ錠とリュープロレリン注射薬の短期投与での比較

1. 研究の対象

- ①2015年1月～2020年12月までに、レルミナ錠の内服あるいはリュープロレリン注射後に、同一術者により単孔式腹腔鏡下手術により子宮全摘術を行った子宮筋腫症例。
- ②術後経過が観察できた症例(100%)。郵送によりで予後が解析できた症例(70%)。
- ③治療に対する患者の同意が得られたもの。

2. 研究目的・方法

【目的】2019年3月にGnRHアンタゴニスト製剤であるレルミナ錠が本邦で発売された。レルミナ錠は、GnRHアゴニスト製剤であるリュープロレリン注射薬に見られる投与初期のフレアアップ現象が無く、経口薬であることが特徴である。今回、子宮筋腫に対して、レルミナ錠あるいはリュープロレリン注射薬の短期投与後に、同一術者により単孔式腹腔鏡補助下腔式子宮全摘術(LAVH)を行い、それらの治療効果や手術成績について比較検討した。

【材料と方法】術前にレルミナ錠あるいはリュープロレリン注射薬を2ヶ月程度短期投与し、同一術者によりLAVHを施行した各35症例を対象とし、後方視的検討を行った。また、術後に患者へアンケートを郵送し、副作用や投与薬の希望について調査した。

3. 研究に用いる試料・情報の種類

2015年から2020年までに当科で、同一術者により単孔式腹腔鏡下手術により子宮全摘術を行った例で、術前にレルミナ錠の内服(35例)とリュープロレリン注射(35例)を対象として、電子カルテの記録より、術前や周術期の診療データについて後方視的検討を行った。また、術後に患者アンケートを郵送し、副作用や薬の希望に付いても検討を追加した。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さんもしくは患者さんの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さんに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先

住 所: 岐阜県立多治見市前畑町 5 丁目 161 番地

電 話: 0572-22-5311

研究責任者: 岐阜県立多治見病院産婦人科 竹田明宏

-----以上